概　要　報　告

実施期日	８月１日（金）
部　会　名	中学校　特別活動部会

テーマ

『地域と連携した学校行事の在り方・進め方』

提案概要

○題材　「ＦＧＣ活動」（地域のＮＰＯ、社会法人、自治会等と連携した学校行事）

○学習指導要領との関連

特別活動　第２　各活動・学校行事の目標及び内容

［学校行事］１．目標

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

○実践に向けての課題意識

現在の中学生の現状は、日々時間に追われ、関わりのある大人は家族や学校の先生などに限られている。そのため、学校が生徒と地域を結びつける機会を設け、子どもに関わる人を増やす必要がある。この活動では、地域力によって子どもたちを支えていくことを目指している。また、生徒が積極的に地域づくりに参画していく自主的・実践的態度を育てることを意識して、この活動に取り組んでいる。

○実践の概要

・地域のＮＰＯ、社会福祉法人、自治会等と連携した学校行事である。

・ＦＧＣ活動のＦＧＣとは、Find(発見する)　Good life(よい暮らし)　Community(地域)　というそれぞれの単語の頭文字。自分たちの葉山の良いところを発見し、さらによいところにするためにはどうすればよいのか(発見し、課題を考える)。そして自分たちは何をするのか(行動する)。また、調べ考え行動したことをいかに伝えるか(発表し、互いに評価する)という目的から、生徒が名付けた造語。

・１年生では、地域の方のガイドによって校区内の自然・歴史・地理等を学んだり、自分が住む地域の方から話を聞いて地域の良さや課題を考えたりする。

・２年生では、葉山ならではの体験学習をし、葉山の魅力を実感するとともに、地域の方々との交流を通して様々な考え方や生き方を学ぶ。

・３年生では、お世話になった地域の方々への感謝の気持ちを込めて地域清掃活動を行う。

・「地域理解」→「地域連携」→「地域貢献」→「よき地域人となる」のサイクルを目指し、１０年以上続く、３年間を通した体系的・継続的な活動である。

・学習の内容や目的に応じて、総合的な学習の時間で行う活動と、特設学活として特別活動の時間で行う活動がある。

○成果

・様々な体験学習やふれあいを通して、世代を超えた方々との交流ができ、心豊かな人間の形成に寄与できている。学習指導要領の学校行事の目的にも合致している。

・自分たちが住む葉山という町の魅力を実感し、将来「よき地域人」としての人間の形成に寄与できているとともに、地域にある資源を活かした独自性のある内容が展開できている。

○課題

・「他の行事との関わり」および「時間の捻出」の工夫

活動時期が４月から夏休み前に集中し、他の行事と重なり忙しい。関係する団体が多く、時期をずらすことは容易ではなく、内容の精選が求められている。

・内容の固定化によるマンネリ感があり、活動の意義を見失いがちである。

・評価については活動の意義をはっきりさせながら、方向性を考えていかなくてはならない。

質疑概要

○２年での体験活動についての発表では、発表会に地域の方を招待しているか。

　→当初は招待し来ていただいていたが、出席が少なくなってきた。招待しない年もあった。

○文化祭などで発表するか。　→廊下などにレポートを掲示し、展示している。

○１年で行うふれあいの会の事前準備は３時間あるが、その内容はなにか。

　→当日行う質問内容の検討や班員の役割分担、活動の意義の確認などを行う。

○全ての活動を特別活動として行っているのか。　→総合的な学習の時間とあわせている。

○年間を通して、他の行事と時間数との関係はどのようになっているのか。

　→振替授業などを行いながら、年間を通して調整している。

○２年生で体験学習があるが、職場体験は行っているのか。

　→ＦＧＣ活動は地域を学び、職場体験は働くことについて学ぶというように目的が異なるため別に行っている。

研究協議概要

１．「他の行事との関わり」および「時間の捻出」の工夫について

・時間を捻出するための工夫として、調べることは宿題にする、発表の方法は教科の授業内で学ぶ、発表は掲示にする、などのようにする方法がある。
・７時間授業や短縮授業などでも時間数を確保していくのが難しい学校もある。
・授業との振り替えなどで特活の時間を確保しているが、もちろん授業時数も確保している。
・行事の前に人間関係づくりが必要であり、この部分に力を注ぐことが大切である。
・年度末に特別時間割を組んで特別活動を行う。
・総合的な学習の時間との線引きが難しい。特活との区切りはどこか。ガイドラインがあると良い。

２．地域との関わりで工夫していることについて

・地域の方に学校に来ていただく機会を多く設定していかないといけない。
・地域と関わることを特別活動に絞って考えるのは難しい。総合学習として行うことが多い。
・地域の方が講師として出前授業を行っている。（総合的な学習の時間に設定されている）
・「おやじの会」があり、夏休みに学校に宿泊する会がある。
・地域と協力して防災訓練を行っている。
・防災についての地区マップを作成したり、自治会との交流を行ったりしている。
・あいさつ運動や地域清掃、地域のお祭りへの参加など、日頃から地域との関係を深めるようにしている。
・職場体験で地域の方に協力をお願いしているが、子どもたちを職場にお願いするのは難しい。そのため日頃から様々な機会を活用して地域と関わる場面を作り、相互理解を深める必要がある。

まとめ概要

日本では、子どもの学力も高く、道徳なども世界で認められている。一方で、地域連携はまだ十分ではない。学校において、そうした機会を作り、良い体験をさせる必要がある。しかし、学校側の思いと、地域の思いが異なることもあるため、地域コーディネーターなど学校と地域をつなぐ存在が不可欠である。地域ごとに特性もあるので、やり方はそれぞれの地域にあったやり方を考える必要があるが、第三者のパートナーづくりは重要な課題である。

特別活動の特質は「望ましい集団活動を通して」という点にあり、総合的な学習の時間の特質は「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して」という点にあるととらえることができ、これが両者の違いである。特別活動の体験活動を総合的な学習の時間の代替とすることはできないが、総合的な学習の時間として計画した学習活動が結果的に学校行事の内容と合致した場合、特活の時間にあてることができる。

学習指導要領によると、言語活動の充実や、自主性・協調性の育成が求められている。これは特に学級活動における話し合い活動を指している。また、学級活動は毎学年１７項目、３５時間取る必要がある。これは毎週行わなければならない。集団で話し合い、集団で決定し実行する活動と、集団で話し合い、個で決定し実行する活動がある。特活の時間が削られることが多い中、話し合い活動を重視して、自治的なクラスづくりの時間を大切にしていく必要がある。